

昭和女子大学 数的処理【模擬講義】

はじめに

数的処理とは

数的処理は、**数的推理**、**判断推理**、**空間把握**、**資料解釈**の4つの科目の総称です。教養択一試験（基礎能力試験）の中でも出題数が多く、可否の鍵を握る重要な科目といえます。

数的推理	数学に最も近い科目です。「中学受験の算数」に近い問題も多く、単純に算数・数学の知識があれば対処できる出題もあります。算数・数学について苦手意識がないのであれば、取り組みやすい分野ですが、苦手な人であっても、最小限の知識があれば点数を安定させることが可能です。
判断推理	論理問題や推理問題など、条件からわかることを整理していくタイプの問題が多く出題される科目です。初見だとどう取り組めばよいのか途方に暮れるかもしれません。解法パターンや着眼点を特に理解しておく必要がある分野です。頭の体操だと思って取り組んでみるとよいでしょう。
空間把握	立体図形を展開・切断・移動させるなど、図形の計量以外の問題がメインに出題される科目です（「判断推理」の中に非言語分野として含まれることもあります）。イメージを働かせることも重要ですが、想像しづらい図形でも客観的な知識を使って分析的に解くことが可能です。
資料解釈	グラフや表などの資料を読み取って、計算して選択肢の記述の正誤を判断する科目です。計算といっても割合が大半で、特に資料や選択肢の読み取り方が重要になります。最初はとにかく時間を食う科目なので、素早く選択肢を選べるような計算テクニックも必要になってきます。

どの科目も、一定程度の算数・数学の知識が必要とされます。ただし、くれぐれも注意してほしいのは、数的処理は数学そのものではなく数的「処理」であるという点です。数学の公式や理論は「考えるためのツール」として最低限知っていればよく、そこから頭を働かせて「処理」をする必要があるのです。ですから、**算数・数学が苦手という人でも点数はしっかり伸ばせます。**